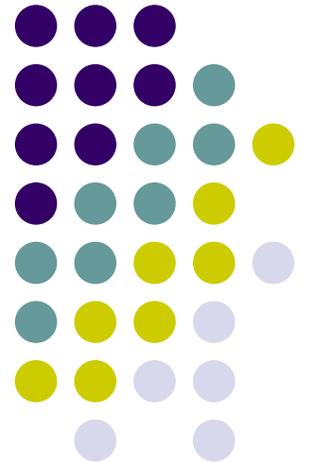
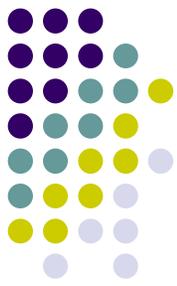


中国西南民族史

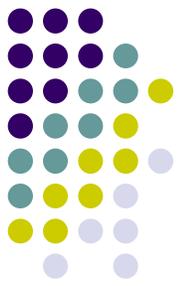
4. 六朝末～隋唐初の西南民族 (AD 5～7c)





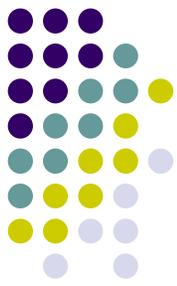
六朝後期の雲南地方

- 雲南東部：爨氏
曲靖・陸良・昆明などに同族の支配者
刺史・太守などを自称・世襲
- 雲南西部：「張氏白子国」
白崖（大理州弥渡）を中心とする政権
またの名を「建寧国」



張氏白子国

- 唐代の白蛮＝元代の僂人
＝現在の白族との関連で語られる
(中国学会で「僂人」が重要視されるのはこのため)
- 「建寧国」の名：中原の乱を避け流入した漢人が
昆明地区(＝建寧郡)経由で大理地区へ？
(その中に「僂人」が含まれた可能性)
- 問題点：元代以降の史料にしかでてこない
(→南詔国＝蒙氏への遜位伝承)



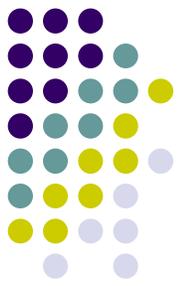
流入漢人の「夷化」？

- 爨氏・白子国ともにその先は漢人、との伝承



「夷化」少数民族に同化し、文化的に退行？
(同地域で漢人は圧倒的に少数のため)

いかに少数とはいっても、
統治地位にあるものが簡単に同化されるか？
(後代の北方遊牧民の「漢化」とは状況が違う)

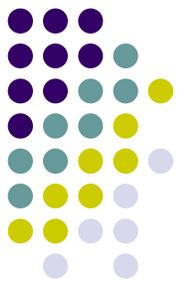


流入漢人の「夷化」？

- 「本来の文化は保持しつつも、中原との間に格差を生じた」可能性

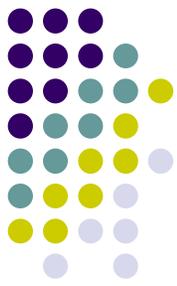
※「漢」(華)／「夷」の判断→つねにその当時の中原文化を基準とする

- 爨氏：「南中大姓」→「諸爨・氏」(『南齊書』)
「西爨蛮」(『隋書』『唐書』)



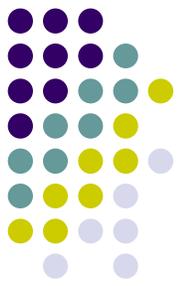
陳・隋による四川平定(580)

- 四川平定後の梁睿(りょうえい)の建議:
「漢代開此、本爲討越之計。伐陳之日、
復是一機、以此商量。」(『隋書』梁睿伝)
→河北を統一した隋朝が、南朝の陳を攻撃する
ための迂回路として雲南を使うことを想定
↓
- 採用されなかったが、史萬歳の遠征の
根拠となる



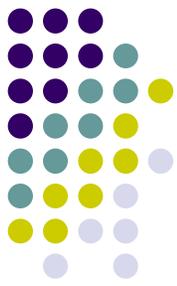
史萬歳の遠征(597)

- 「土民爨瓚遂竊據一方、国家遥授刺史、其子震相承至今。而震臣礼多虧、貢賦不入」(梁睿伝)
- 「其後南寧夷爨翫(がん)来降、拜昆州刺史、既而復叛。乃以左領軍將軍史萬歳為行軍總管、帥衆擊之」(『資治通鑑』)
- 清溪関路より入り、洱海地区を經由して滇池地区へ→爨翫をとらえる→翫の賄を受け釈放(のち発覚して史萬歳は処分される)



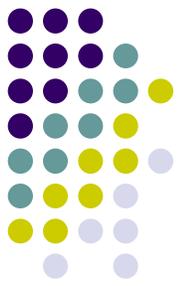
高祖～高宗期の雲南経営①

- 韋仁寿(624)
檢校南寧都督(治儋州)→南寧に移鎮。
「蛮・夷豪帥望風歸附、来見仁寿」
- 梁建方(648)
劉伯英上疏「松外諸蛮、率暫附亟叛、請擊之、
西洱河天竺道可通也。」(←雲南・インドルート)
儋州から南下して西洱河(洱海)地区へ
→洱海地区に関する詳細な記録(西洱河風土記)



高祖～高宗期の雲南経営②

- 趙孝祖(651)
「白水蛮」の征討(雲南東北部)→余勢を駆って
西洱河地区へ
- 目的地は当初滇池地区
→爨弘達帰附の後、おもに洱海地区へ
- 洱海地区に関する知識の増加(「西洱河風土記」)
→「大君長無し」:「白子国」に関する記載なし



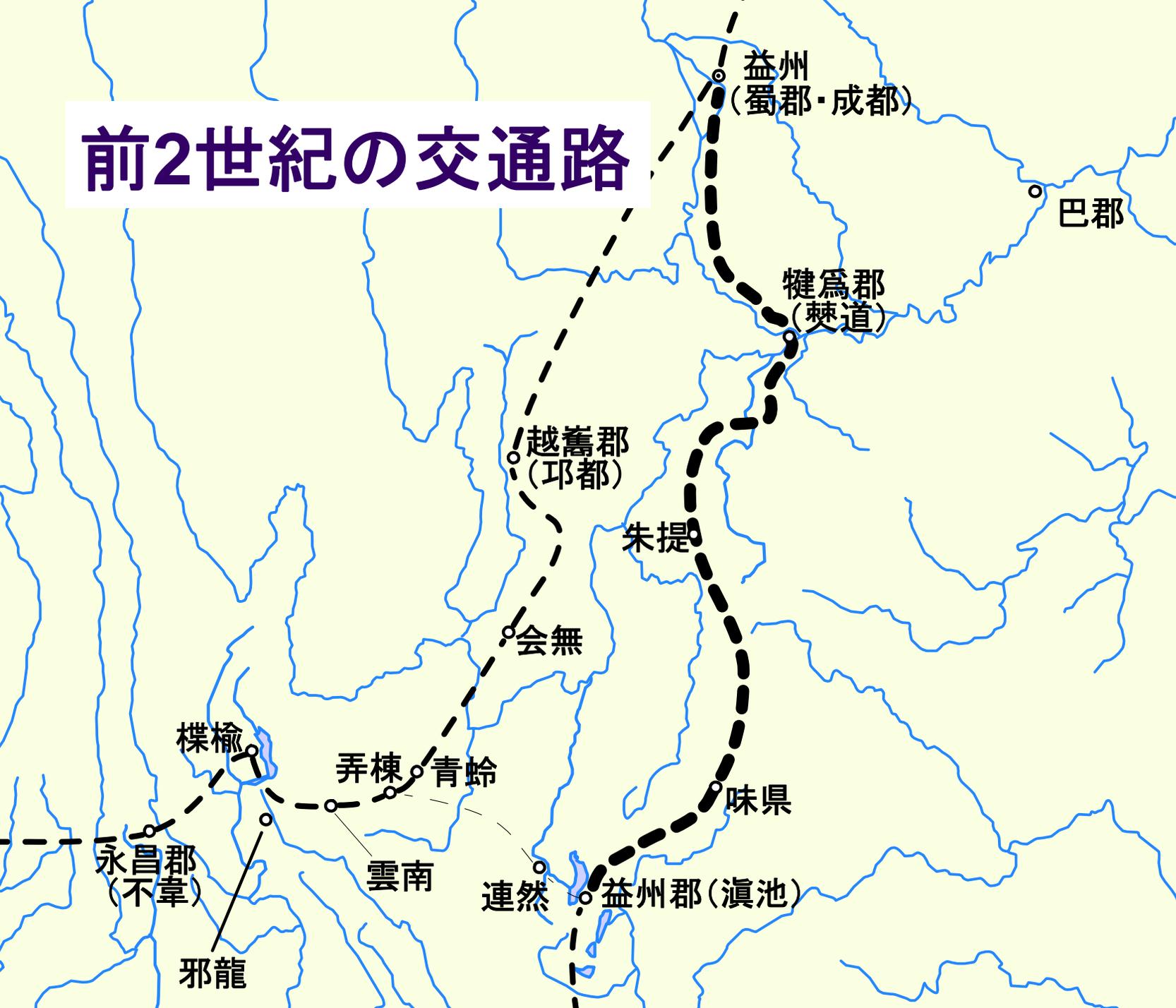
羈縻(きび)政策の浸透

- 雲南各地に州県(羈縻(きび)州県)の設置
西洱河蛮・東洱河蛮・松外蛮首領→唐へ入貢

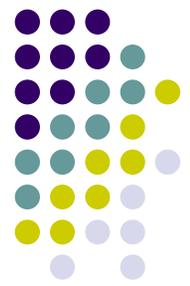
664「昆明之弄棟川置姚州都督府」

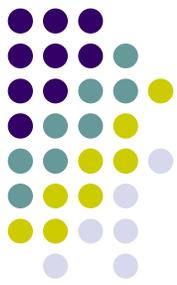
- 姚州:唐王朝の最前線基地(毎年500人を派遣)
中原から雲南へのルートが石門路(戎州=宜賓経由)
から清溪関路(嵩州=西昌経由)に変化
- 武后時代に廃止論も(却下)

前2世紀の交通路



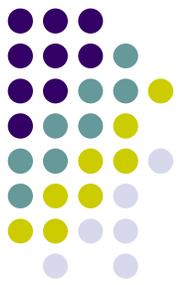
7世紀の交通路





開元末・天保初の雲南民族

- 滇池地区：西爨（＝爨氏）・東爨
→ 実質的には爨氏の政権が継続
- 洱海地区：「六詔」
→ この時期急速に新しい政治権力が勃興
→ 「西洱河蛮」（「白子国」の実体？）もその支配下に入る



西爨と東爨

西爨・東爨(→『蛮書』)

- 「西爨、白蛮なり」

石城(曲靖)・昆州(昆明)・晋寧など

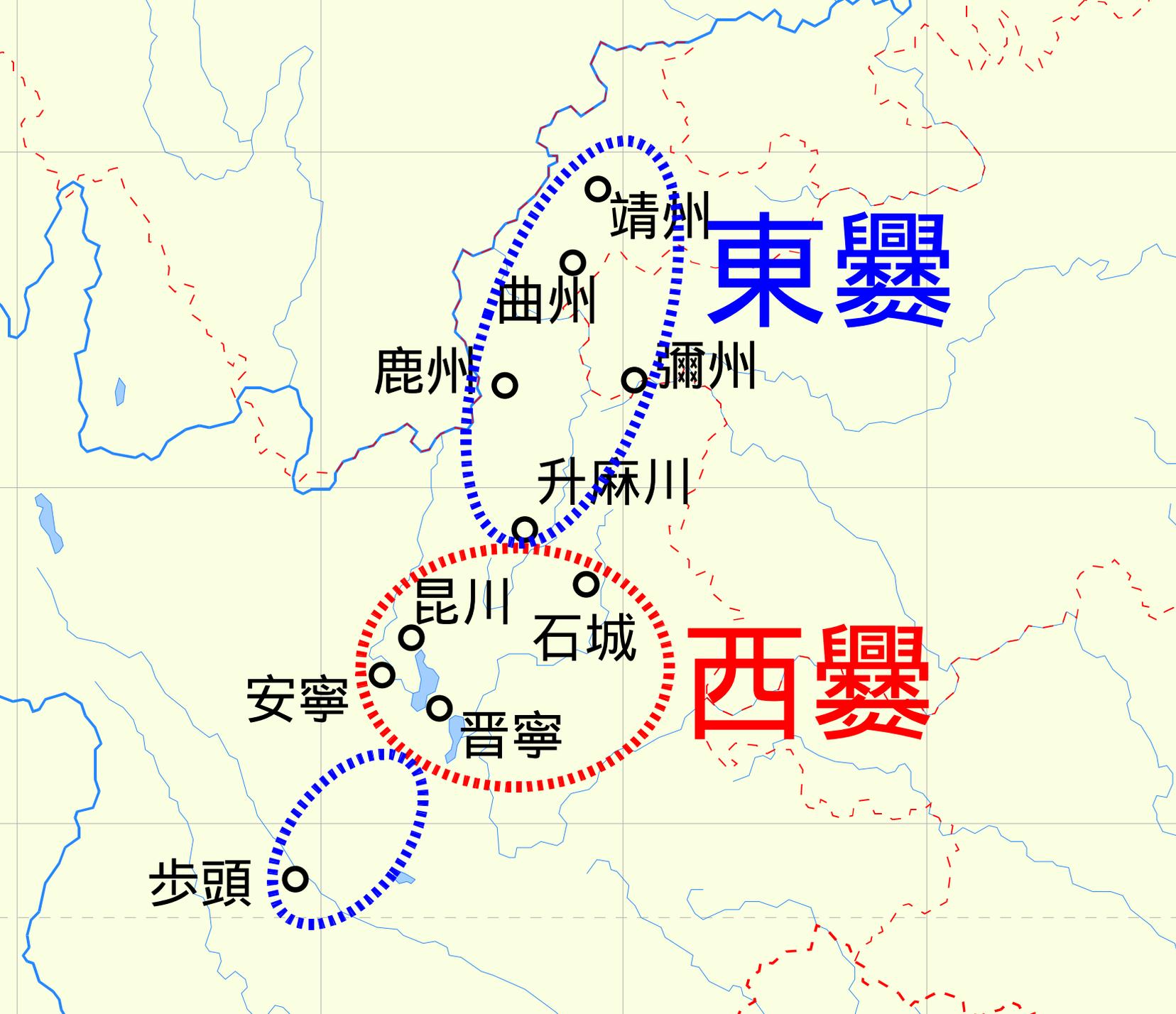
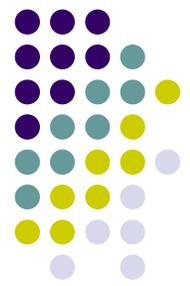
爨氏一族が支配する、盆地部の農耕民

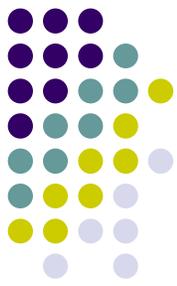
- 「東爨、烏蛮なり」

曲州(昭通)・靖州(威寧)・彌川(宣威)・鹿川(会澤)

など

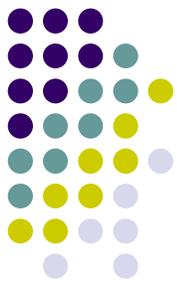
石門路沿いの山地民(爨氏の直接支配下にはない)





開元末(720年代)の爨氏

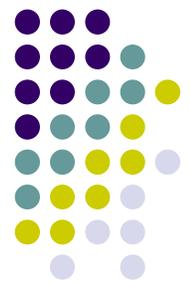
- 爨歸王「南寧州都督」
爨崇道「兩爨大鬼主」(歸王の兄の子)
爨日進・日用→安寧城(崇道の弟)
- 曲靖・滇池両地区を中心に雲南東部・中部に
大勢力
- 唐に対してはしばしば反抗的



六詔(りくしょう)の勃興

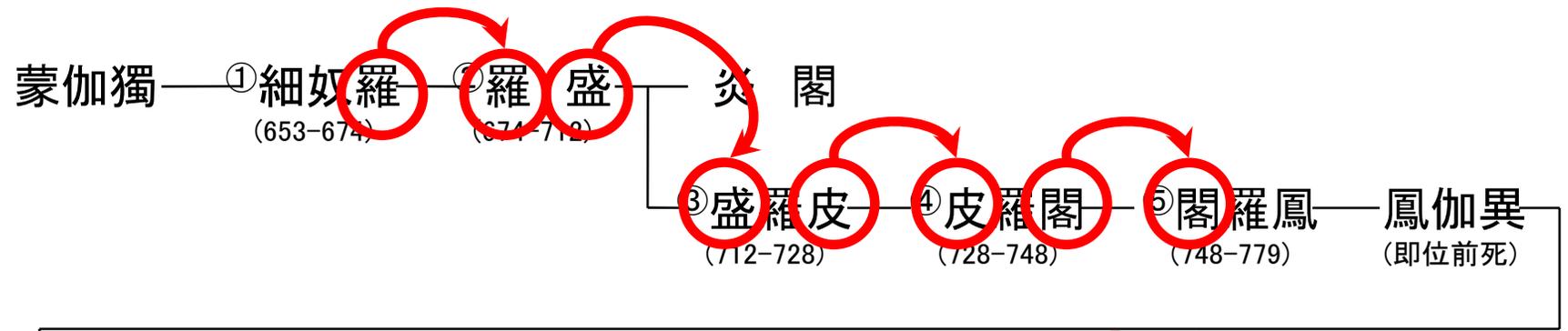
「六詔並烏蛮」(『蛮書』)

- 蒙舍詔:「自言本永昌沙壺之源也」哀牢人?
→「在諸部落之南, 故称南詔也」
- 蒙巒詔:「同在一川」蒙舍詔(南詔)と同族?
- 越析詔:「亦謂之磨些詔」
→磨些蛮=現代納西(ナシ)族の祖先
- 浪穹詔
- 盞賧詔:「凡浪穹、盞賧、施浪, 總謂之浪人」
- 施浪詔 →「昆明人」(漢代以来の住民)



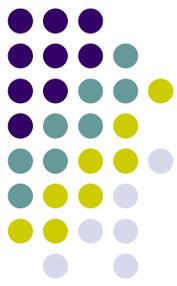


南詔蒙氏(蒙舍詔)系圖



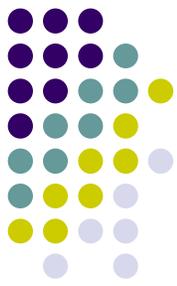
父子連名





六詔の政治権力の由来

- 「白子国」との関係は蒙氏の伝説を除いて不明
(蒙氏 = 白子国からの遜位伝承)
- 系譜によれば開元末ごろに初代～三代
(蒙氏のみ四代)
→ 8世紀に入ってから急速に形成
- 羈縻州県設置から1世紀
- 吐蕃(チベット)の隆盛・西南中国にも勢力伸張



「烏蛮」と「白蛮」

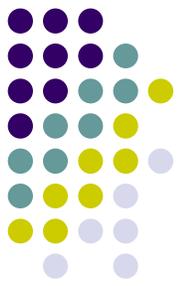
- 「西爨白蛮」「東爨烏蛮」

- 「六诏並烏蛮」

→ 唐代雲南の多数の民族に対する類別的名称

- 具体的にどんな民族を指すのか？

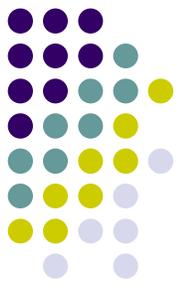
→ 1950年代に日本と中国で論争



50年代日本での論争(白鳥・牧野)

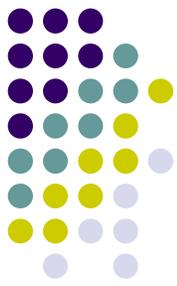
- 白鳥芳郎
→ 烏蛮は口口(=彝族) / 白蛮はタイ族
- 牧野 巽
→ 烏蛮・白蛮共にチベット・ビルマ系,
白蛮と民家(→白族)との関係

※白鳥は90年代に旧説を撤回、白蛮(白族)もチベット・ビルマ系とする



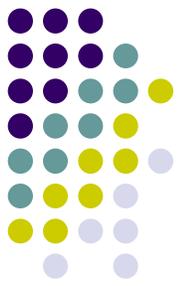
50年代中国での論争(白族起源論)

- 白族の起源←南詔の民族系統
タイ族説を強く否定
(「領土侵食を狙う『大タイ族主義』の陰謀」)
大理白族自治州成立に伴う政治的意義が強い
 - 漢族後裔説(否定論者多し)
 - 氐羌説
 - 多種属融合説
 - 雲南土着民族説



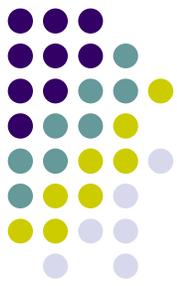
70年代以降の中国における学説

- いずれも漢代の「僂人」との関係に注目
- 尤中：白蛮＝漢代の僂族（雲南土着）
烏蛮＝叟・昆明
- 馬曜・王叔武：
滇僂→叟→西爨白蛮→白爨・僂人→民家→白族
昆明→昆→東爨烏蛮→黒爨・爨蛮→羅羅→彝族



70年代以降の中国における学説

- 方国瑜・林超民：
地域により指示内容・分類基準が違う
- 東爨・西爨→同一民族で先進・後進の違い
- 洱海地区→異なる民族間の先進・後進
(烏蛮＝昆明・哀牢・磨些
白蛮＝青蛉・西洱河・雲南・弄棟・漢姓)
- 嵩州地区→異なる民族を風俗・服飾により分類



史料からいえること

- 六詔の父子連名制＝チベット・ビルマ系の習慣
→ 烏蛮：チベット・ビルマ系

- 『西洱河風土記』の生業・風俗
「西爨」に関する記述
→ 白蛮：盆地の水田農耕民

※ただし具体的な「族属」（民族系統）は確証を欠く、
あるいは議論することに大きな意味がない